



Title	＜書評＞「日本の広告美術」明治・大正・昭和 1 ポスター 東京アートディレクターズクラブ編 美術出版社刊 1967年4月30日発刊
Author(s)	中西, 徹
Citation	デザイン理論. 1967, 6, p. 106-108
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/52482
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

書評

「日本の広告美術」

明治・大正・昭和 1

ポスター
東京アートディレクターズクラブ編
美術出版社刊 1967年4月30日発刊

本書は日本の広告美術シリーズの新聞、雑誌、ポスターのうちの第1巻ポスター部門である。

私が本書を大枚5800両を投じて手に入れようと思ったのは、この種の本が今までに無く、また今後も二度と発刊されぬと思ったからであり、またこの種の本では一番良心的な編集であろうと秘かに期待したからである。

本を手元にし通覧したところ、明治初期の木版刷びらから昭和30年代のポスターまで延 465点の作品が大体年代順に並べられ、印刷も適当に多色刷を配し原画の味をよく写して居た。また小川正隆のポスター百年の覚書という小論は、よく本書の掲載作品に忠実に日本のポスターの変遷を追って居たし、山名文夫の概説、日本の広告美術はこの間の広告美術界の動きを具体的に、作家やグループの活動を中心にして説明している。更に巻末に年表や索引を載せる等真面目な編集である。

その意味から、私の初めの期待はほぼ満足されたのである。併しその反面また大いなる絶望感におそわれたのである。すなわち、その本は私に私の期待だけを充たしてくれただけで、それ以上の何者も訴えてくれなかったのだ。丁度、桜の満開時に渡月橋から嵐山を見る心境である。悪く言うと絵葉書的なのである。何はともかくその錦絵的な内容を紹介しよう。

明治初期の木版びらの文字を主体とした一見神社の護符の様な薬品広告びら、

寄席やサーカスの錦絵、三越が一世を風靡したという美人画ポスター、叙情的な夢二のポスター、オット・デュンケルのカルピスのポスター、寺島貞志のプロレタリア美術展のポスター、河野鷹思の映画ポスター、奥山儀八郎のニッケのポスター、から戦時中の早川源一、管井汲のポスター、戦後の亀倉雄策、早川良雄、伊藤憲治、田中一光、大橋正、氏原忠夫、金野弘、栗谷川健一、中村真等のポスター等、懐かしいポスター、忘れて了った様なポスター、或はこんな立派な作品があったのかと驚く様なポスターの数々が良く収集されている。

そしてそれ等は人々が言う如く、^{ふうび}「時代の証人」として生きて来た作品群であり、それ等を通じて社会風俗や日常生活の変遷を知り得るということで「貴重な文化的資料、でもあろう。

更にまた印刷技術、製版技術の技術史としても貴重な本である。また内田巖、岡田謙三、岡田三郎助、木村莊八、小磯良平、東郷青児、中村岳陵、中村不折、藤田嗣治、宮本三郎、村山知義、横山大観、和田三造等の画家のアルバイトを見るのもまた一興であり、更に本学会の重成基、福永俊吉、早川良雄、中村真、金野弘氏等の活躍を知るのも頼もしい。

これだけの内容を持つ本であるのに何が物足りぬと私は言うのか。

私は思う。歴史というものは歴史的事実が如何に異なると、それ等の事実間に何等かの脈絡があり、またそれらの歴史的事実が存在した必然性が必ず見つけられるのである。しかるに、本書のポスター群を結びつける歴史的脈絡は、社会的風俗とか印刷技術といった様なもので、デザイン本来の歴史的脈絡を見つける事が出来ないからである。

これは何も編者の責任ではないだろう。日本のグラフィックデザイン自体がデザインの歴史を持たなかったからであろう。イラストレーションやレタースタイルの様式史は確かに見られるが、広告美術を広告美術たらしめるグラフィックデザインの歴史が無い様だ。グラフィックデザインの歴史が無いということとは作品がデザイン的に創作されて居ないという事になる。こんな事をいうと本書に出て来る諸氏に対して非常な暴言と云われるかも知れぬが、本書に出て

来る諸先輩は、その様な状態の中でポスターを作らされて来たのである。何もかも自分一人で責任を負わされてポスターを作って来られたのである。そのことに関しては充分敬意を捧げるのに私もやぶさかではない。併しグラフィックデザインの本当の骨組みとも云えるデザイン、即ち視覚的作業以前のクリエイティブが殆んど欠けているのだ。そしてその様な状態のまま明治、大正、昭和と来て了ったのだ。と云うのも、吾々は本書が出るまでに、グラフィックデザインの仕事を歴史的に反省する適当な資料を持ち合わさなかったからであろう。

私は本書がデザイン史の反省の資料となって将来のデザインの創作活動に寄与するよう祈るのである。

京阪電鉄株式会社 中西 徹

洋 画 材 料
額 縁
製 図 器 具
図 案 材 料

D 大地堂

京都市上京区河原町今出川東南角 TEL. 23-8008